

新入生の皆さんへ

学びのための情報発信型図書館

図書館長 赤野 一郎



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。このGAIDAI BIBLIOTHECA(第204号)を手にする頃には、大学生活に少しは慣れてきていることでしょうか。でも高校生活との違いに戸惑いを覚えているかもしれませんね。大学と高校の大きな違いの1つは図書館の果たす役割です。皆さんの中には高校時代あまり図書館を利用しなかった人もいるかもしれませんが、大学では図書館抜きの学びはあり得ません。そこで図書館を効果的に利用していただくため、その心構えと本学図書館の特色についてお話ししましょう。

IT技術の革新のおかげで、私たちは今までになかった便利さを享受しています。でもその便利さに頼りすぎはいけません。宿題が与えられたとき、インターネット上のWikipediaで調べ、適当にコピーしておしまいということはありませんか。あるいは単語を調べるとき、紙の辞書ではなく電子辞書で意味だけを調べるということをしていませんか。単語を入力しボタンを押せば、すぐその語の意味が表示されますが、その便利さが外国語学習ではマイナスに働くことがあります。紙の辞書で単語を調べるのにはページを繰る必要がありますし、求める単語のページにたどり着くのに、電子辞書より時間がかかるかもしれません。でもそのページにたどり着くと、一度に多くの情報が目に入ってきます。例文に目が留まります。単語には複数の意味や独特の語法があることに気づきます。その気づきが外国語学習には欠かせません。視野が狭い電子辞書ではこういったことが起こりにくいのです。同じことが図書館で本を探す場合にも言えます。コンピュータで検索すれば求める本があるかどうか、またその所在がすぐにわかります。でも書庫に入り書棚を眺めていけば、他の書名も目に入ってきますし、中身を確認することもできます。書庫では思わぬ書物との出会いがあるのです。

インターネット、電子辞書、コンピュータによる図書検索に共通していることは、答えがピンポイントで瞬時に得られるということです。

答えに至るまでのプロセスを簡略化してくれませんが、検索項目どうしの関連性が見えないため、自ら気づく機会を失い、新しい発見がありません。皆さんには、答えに至るまでの手間を惜しまないで、図書館を利用していただきたいのです。そのために、本館とアジア関係図書館からなる本学付属図書館のおもな特色を3つ紹介しましょう。

第1の特色は、外国語大学にふさわしく、多岐にわたる言語と言語圏に関わる資料の豊富さです。所蔵する資料は英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、日本語、イタリア語など本学の専攻言語をはじめ、ロシア語、オランダ語、アラビア語、ハングルなどの言語に及び、これらの言語圏の言語・文化・地域研究のための資料が積極的に収集されています。

第2の特色は、外国語学習に役立つ多種多様な教材が利用できることです。たとえば第5閲覧室(8号館地下)には、英語の多読用読本(Graded Readers)、映画化された原作のペーパーバック、英語・スペイン語、英語・フランスの2言語同時学習用の図書(Dual Language Books)を多数揃えています。多読は外国語の読解力の向上と語彙力の増強、ひいては会話力の向上に効果があります。

第3の特色は本学図書館が独自に構築している蔵書の主題別書誌データベースです。言語・地域研究関連、文学関連、授業対応関連、就職・資格取得関連など11のカテゴリー別に、40以上の主題に関係する図書が集められており、該当する項目を選ぶだけで、目当ての図書がリストアップされます。たとえば就職・資格取得関連の主題「資格試験」からTOEICを選べば、78冊のTOEIC対策の図書一覧を入手できます(2014年2月17日現在)。

以上の図書館利用の心構えと本学図書館の特色を念頭に置いて図書館を利用し、大学での学びを豊かで広がりのあるものにして下さい。

あかの いちろう(教授・英語学)